

中澤宣幸―盤面を大きく使う

手順が素晴らしい。

☆相手陣二段目を不成で往復する桂。この奇妙な手順は

L字型の飛の大移動とあいまって、強烈な印象を解答者

者に与えました。

作者―玉を一時的に行き所のない駒

に変えるために、バツテリー（広義）を組み直

します。（後略）

☆開き王手の概念は動く駒と

王手する駒が異なる着手全般に拡張

できません。本作は

「桂が動いて飛で王手」と

「飛が動いて桂で王手」を

交互に繰り返して玉を桂の

性能にし、19桂を龍の性能

にして詰上げます。

荻原和彦（抜粋）―豪快な桂

のスイッチバックの後、不

動の桂で詰ますコントラス

トの妙。

☆攻方の王手はすべて飛と桂

の性能交換。自由奔放に見

える駒の動きには明確な秩

序が伴っており、作者の高

い美意識が感じられます。

③安南打歩協力自玉詰 11手

（受先）

伊達悠

										一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

45桂、37角、48飛、同角、

同角生、57飛、58飛、同飛、

同歩生、19飛、49歩迄11手。

【安南】味方の駒が縦に並ぶ

と、上の駒の利きは下の駒

の利きになる

【打歩（完全打歩）】打歩詰以

外の詰手を禁手とする。こ

れは先後双方に再帰的に適

用される。

作者―課題 “奇妙な棋譜表

記”は最終手に設定し、そ

れを基軸に安南らしさ・完

全打歩の法則性を付与して

いったもの。（後略）

☆最終手49歩。相手陣最奥か

ら斜めに王手する奇妙な打

歩詰です。これを飛で取れ

ないのはなぜでしょう？

森美憲―最終手に対して49

同飛は、打歩詰以外で相手

が詰む反則というのが面白

い。

☆これが完全打歩の効果。

中澤宣幸―58歩の形にするた

めの初手が絶妙。

占魚亭―二歩禁回避のための

初手桂打ち。上手い！

☆初手45桂は46歩を不成で

58に跳ばして二歩禁回避と

玉の弱体化を図る妙手。5

手目角生は49への利きを消

し、10手目は飛の移動合を

防ぐ限定打。全ての着手は

最終手に向けたお膳立て。

安南×完全打歩の奇妙な詰

上りを数々の好手で際立た

せた作品です。

④歩王詰 17手（※無駄合概

念適用）

上谷直希

											一
											二
											三
											四
											五
											六
											七
											八
											九

持駒 桂桂歩3

17歩、同玉生、29桂、同金、
27飛、18玉成、19歩、同金、
28飛、17宝、29桂、同金、
18歩、16宝、26飛、同銀、
34角迄17手。

【歩王】玉が歩の性能（成る

と「と金」の性能）を持つ
。二歩禁の対象にはならな
い。行き所のない駒になっ
てはならない。（ここでは成
玉を「宝」と表記。）

☆玉生と玉成。多くの人はこ
んな棋譜を書いたのは初め
てでしょう。歩は成った方
が得なはずですが、2手目
は不成。その狙いは？

川端潤―玉自らの打歩誘致。

駒井信久―打歩詰誘致の玉

不成。確かに変な詰将棋だ。

☆2手目同玉成は18歩以下

作意順に短絡するので玉生
で3手目18歩を打歩詰とし

ます。しかし本作の本当の
見せ場はここから。

作者―玉を成らせることでの
打歩打開が狙い。棋譜表記
に玉生と玉成が出るように
仕向けました。

☆攻方は29桂で打歩詰打開
を図ります。6手目は玉成
が絶対。不成だと作意同様
に進めて9手目28飛で詰み
ます。以下成玉を16に強引

に戻し、角でとどめ。普通
詰将棋と同様、無駄合概念
を適用した理由の一つがこ
の詰上りです。

和田裕之―角を使う場所が他

にないが、補足を読み直し
てようやくこれで詰と気づ

く。変化でも56角が合効か
ず。

☆8手目同宝は以下29飛、同
宝、56角、39宝、48銀、49

宝、59金迄15手。無駄合概
念の適用で、この変化が割
り切れます。変則的な玉の
表記が解答者を戸惑わせま
したが、内容は打歩詰の誘
致と打開を巡る詰将棋らし
い手順。正解者数も⑤と並
び今回最多でした。

⑤安南協力自玉詰 18手
神無太郎

6	5	4	3	2	1	
				王		一
			桂	王		二
			金			三
						四
						五
						六
						七
						八
						九

持駒 なし

33王、11玉、23桂生、12玉、
24金、11玉、14金、12玉、
24王、21玉、33桂生、22玉、
34王、12玉、24桂生、11玉、
23王、22玉迄18手。

竹園政秀―自玉を桂にする。
☆桂頭玉を目指し、桂を後ろ
に下がらせる作品。四段目
で「桂生」の表記を出せれ
ば成功です。でも、それを
妨げる駒があります。

岩本修―34金を14に動かし
ておく事前工作がいいです
ね。

中澤宣幸―7手目25金の紛
れに誘われました。

☆34金がなければ5手目24
玉以下14手。33玉が金の性
能になるのがネックです。
とはいえ金を消去しては手
数が足りません。「消去」が

だめなら「回避」ですが、
その場所も問題。25に回避
させると19手目24桂生が
王手になりません。

田中孝海―初形の駒のまま終
形まで持つて行く。入れ替

えパズルか。

☆派手な手はありませんが、安南の定番手筋に一工夫を加えた好小品です。

⑥背面協力自玉ステイルメイト 20手

北村太路

				銀		香		一
						香		二
					王	歩		三
							角	四
					桂	飛		五
				金	王		飛	六
				王	銀			七
								八
								九

持駒 角歩

35歩、37桂生、33桂成、同玉、66角、67桂打、42銀生、同玉、46飛、同香生、23歩生、16桂、45金、同香、44金、35香、43金、同玉、49飛、同桂左跳生迄20手。

【背面】敵駒と背中合わせになつたとき、互いに利きが入れ替わる

【協力自玉ステイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をステイルメイト（王手は掛かつていないが合法手のない状態）にする

☆どのような形にすればステイルメイトになるのか想定困難な難解作。まずは唯一の正解者の感想を。

須川卓二―部分の手筋を繋げて行くのだが2手オーバーで苦しみました。42銀生、

43桂としたくなる所、同玉以下の香の後ずさはまさに妙手順でした。

☆最大の懸案は19飛の処理。

これを捨てるため香が後退2回、横移動1回で道を空けるのが驚きの手順です。

☆最終手では49に3つの桂が

利いており、正式な棋譜表記では、37桂が動いたことを表現できません。ここでは「跳」（桂の動きをした）

という記号を導入し「同桂左跳生」と表記しました。

これで攻方玉は桂と歩で囲まれ動けません。最終手に対し48王や68王は自ら王手になる反則、15角は桂の

利きなので移動先がなく、66角も67桂が本来の利き

に戻って自玉に王手を掛けるので動けません。

☆想定困難な最終形と巧妙な手順。ぜひ盤に並べて味わってください。

【総評】

荻原和彦―全題解答できず恐縮です。解けた4題の解答と短評（長いのもあるけど

…）をお送りします。

☆スペースの関係で長評は載せにくいですが、作者には全短評を送っています。長短はあまり気にせず、率直な感想をお寄せください。

【各題の正・誤・無解者数】

①7013 ②848 ③6113

④1208 ⑤1235 ⑥1019

【解答成績】（太字5名当選）

【全題正解】須川卓二

【5題】駒井信久、森美憲

【4題】占魚亭、中澤宣幸、

荻原和彦

【3題】田中孝海、藤沢英紀

【2題】川端潤、竹園政秀、

和田裕之

【1題】岩本修、神谷薫、

鈴木彊、竹中健一、原岡望、

宮田敦史

【0題またはコメントのみ】

市原誠、福田大海、山本強志